

現場名称	直江町の家 梅田様邸新築工事	監理項目「金物検査」
作成者	川本	



【釘チェック】

上棟から少し経ち、構造の骨組みに取り付ける金物や外周部の構造合板が施工されましたので本日は構造金物の検査を行いました
 まずは建物外周部に貼られた構造合板の「釘」チェック。
 構造計算上この釘の間隔も15cmで指定されておりますので、全てスケールをあてて目視検査をします。
 写真の箇所のように間隔が20cmある箇所がいくつかありましたので間に1箇所増し打ちして補強をしました。



【釘チェック】

次に、釘のめり込みのチェックです。
 構造合板に対して釘がめり込み過ぎている箇所がいくつかありましたので、全てその場で増し打ちを行い補強をしました。
 コンプレッサーの空気圧で釘が打たれるため強さの微調整が難しいですが不備がある箇所は全て手打ちで新たに釘を打って頂きました。
 併せて釘が「N50」という指定の釘であることも釘の頭の印字で確認しています。



【金物チェック】

続いて内部の「筋交い」と呼ばれる耐力壁をチェックします。
 これも構造計算上、ダブルでタスキ掛けの筋交いや片側の筋交い全てで設計が決まっておりますので全て位置や仕様に相違がないかチェックをしました。



【金物チェック】

この筋交いも金物で固定されるため全ての金物を目視で検査を行います。
 一部工程の都合上、断熱を吹き付けた後に金物を取り付ける箇所があるためその箇所は改めて検査を行います。
 その他問題なく金物検査を終えて引き続き作業を進めて頂きました。